

アイヌタイムズ 第48号 日本語版

★ 再び「北海道アイヌ協会」と名付けられました

2009(平成21)年4月に、「北海道ウタリ協会」を「北海道アイヌ協会」という名前に代えました。2008(平成20)6月に、政府は、アイヌが先住民族であることを認めました。それで、「北海道ウタリ協会」の「ウタリ」を取って、それに「アイヌ」という言葉を入れて有名になるように新たに名付けられました。

今まで、英語では、これは「Ainu Association of Hokkaido」と名付けられていて、外国では「北海道アイヌ協会」と思われています。

1946(昭和21)年に、静内で北海道アイヌ協会ができました。翌年に札幌で大会がありました。しばらく何もしていません。1960(昭和35)年に札幌で再び大会がありました。1961(昭和36)年に、大会で「アイヌという言葉は、差別があると思われることばである。」と言う人もいて、北海道ウタリ協会という名前に代えました。

48年経って再び「北海道アイヌ協会」という名前に代えました。

アメリカで殺されたキング牧師は、次のよ

うに言いました；「偽りは永遠に続かず、争いからは決してものは生まれぬ。」北海道アイヌ協会の加藤理事長は、この言葉を大事にして、次のように言いました；「アイヌからウタリ、そしてまたアイヌと。半世紀かかりました。長い間翻弄されたゆえに、(この変更には)思いがたくさん詰まっています。これからはアイヌという言葉に誇りを持って進んでいきたい。会員の中にもいろいろな意見があるかもしれないが、国連の権利宣言採択で機が熟したと思う。」

2007(平成19)年9月に、国連は「先住民族の権利に関する宣言」を作って、日本でも外国でも、アイヌや先住民族の権利が大切にされるようになりました。

2008(平成20)年5月に、旧北海道ウタリ協会総会で「本州では、ウタリという言葉は知られていない。権利を訴えることができるように、度胸を持って名乗るべきだ。」と言う人もいて、名前を変えることを決めていました。

[横山 裕之] 沙流・千歳